

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401681
法人名	有限会社 共和
事業所名	グループホームひまわりそう
所在地	〒854-2203 長崎県南島原市有家町尾上1608番地1 (電話) 0957 - 65 - 2788

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(平成20年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 15年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18人 常勤 16人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	有 (無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		925 円

(4) 利用者の概要(11月14日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	69歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田内科泌尿器科医院・石川医院・小嶺歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひまわりそうは郊外の緑豊かな場所にあり、中庭からは有明海が一望できる風光明媚な環境である。ホームの周囲には畑も多く、四季折々の農作物や自然の草花を通して季節を感じることもでき、ゆったりと時間が流れている印象を受ける。管理者が地元の方であるため地域とのつきあひも自然になされており、地域に根付いた運営をされ、それが入居者の安心・安全に繋がっている。ケア面については介護計画に基づいて入居者一人ひとりの状態に応じた個別的で柔軟な支援がなされており、入居者は職員にいるんな相談をされ、それに可能な限り対応しようとする姿勢が感じられる。また入居者がより自分らしく暮らして行けるために管理者を始め職員全体がさらにより良い支援ができるように日々努力されている。入居者は重度化しても思い思いに自由に自分のペースで過ごしていけるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は、評価の意義の理解と活用、職員を育てる取り組み、運営に関する家族等意見の反映等が挙げられており、これらの改善については全職員で検討され、評価の理解と活用については職員全員で自己評価を行うなどして理解を深めている。職員を育てる取り組みについては、研修案内を全職員に回覧し、必要な研修については参加を促すなどの対応がなされている。運営についての家族等意見の反映については、家族とより一層コミュニケーションを図り、日頃から気軽に言っていたけりような関係づくり努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全員で行なうことにより、日々のケアを振り返り、業務を点検・確認している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員、家族代表、市の担当者、ホームの管理者が参加し、2ヵ月毎に開催されている。会議ではホームの現況報告や入居者の状況、行事の開催状況等について報告され、それに基づいて話し合われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>要望や苦情の申出については重要事項説明書に記載し、入居の際に説明しており、日頃から気軽に相談してもらえるように伝えている。要望や苦情があった場合は、職員全員で話し合い、速やかに対応するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年近隣の小学校の運動会に参加したり、定期的に中学生の体験学習の受け入れられるなどして交流を図られている。また、ホームの行事として敬老会を開催され、地域の方々にも参加していただいている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営理念を全職員で検討し、作成されており、入居者及び家族が安心して、それぞれの入居者が自分なりの暮らしが送れることを特に大切にしたい理念となっている。		ホームの独自の運営理念を作成されているが、さらにホームとして大切にされている部分を親しみやすく、わかりやすい表現で現し、入居者や家族、地域の方々の理解が深められることに期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングの中で、常に理念を意識したケアが実践できるよう確認している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年近隣の小学校の運動会に参加したり、定期的に中学生の体験学習を受け入れられるなどして交流を図られている。また、ホームの行事として敬老会を開催され、地域の方々にも参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行なうことにより、日々のケアを振り返り、業務を点検・確認されている。また外部評価を積極的に活用し、さらにケアの質の向上に取り組まれている。前回評価時の結果については全職員で検討し、改善へと繋げている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、家族代表、市の担当者、ホームの管理者が参加し、2ヵ月毎に開催されている。会議ではホームの現況報告や入居者の状況、行事の開催状況等について報告され、それに基づいて話し合われている。		会議をさらに有意義なものとするために、会議の議題に即してそのつど関係する方々へ出席をお願いされることも検討されることに期待したい。例えば災害対策についてであれば消防署や市の担当者に来ていただければ、より具体的な検討ができると思われる。

グループホーム ひまわりそう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのさらなるサービスの質の向上に向けて、市の担当者と必要に応じて連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日々の暮らしをホームだよりや手紙などで近況を伝えている。また出納状況も定期的に出納帳の写しを送られている。ホームに面会に来られたご家族へはそのつど生活状況を伝えるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や苦情の申出については重要事項説明書に記載し、入居の際に説明しており、日頃から気軽に相談してもらえるように伝えている。要望や苦情があった場合は、職員全員で話し合い、速やかに対応するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力行なわないようにしているが、やむを得ず異動や離職がある場合は入居者に説明したり、入居者の不安が広がらないように引継ぎに十分な時間を掛けるなどの配慮を行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は全職員に回覧し、なるべく多くの職員が参加できるように配慮している。研修に参加した職員は、職員会議等の場で研修報告を行い、他の職員にも研修内容を伝えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にあるグループホームケア研究会主催の研修会や交流会に参加し、ネットワークづくりを通してサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては本人及び家族と面談を行い、できるだけ本人が納得して入居していただけるようにしている。入居後本人の不安が強い場合は自宅に日帰りで帰れるように配慮したり、職員が声かけを頻繁に行なうなどして、入居者が安心してホームでの生活を送れるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物たみなど入居者にしていただけることはお願いし、入居者と職員が協力しながら暮らすことを大切にしている。また調理の際の調理方法など入居者から教わることも多く、入居者の経験と知恵をホームの生活に活かされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者のそれまでの生活歴から把握に努めたり、日々のかかわりの中でそれとなくお話を伺いしたりしながら、本人のこれからの生活を共に考えている。意向の把握が困難な入居者については普段の生活の様子などから把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者のニーズに即した介護計画となるように、本人の意向を踏まえたうえで検討している。作成に際してはケア会議を開き、全職員の意見も聞きながらそれらを介護計画に反映している。</p>		<p>ニーズの把握が困難な入居者の介護計画作成に際しては、さらにご家族の方からの意見や要望を聞き、それを介護計画に反映させるようにし、より本人のニーズに即した介護計画となることに期待したい。また、ご家族には再度介護計画の重要性を説明し、ご理解とご協力をいただけるようお願いされることが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に見直しを行っている。見直しにあたってはこれまでの介護計画の達成状況を確認しながら、必要な見直しを行っている。入居者に変化があった場合は3ヶ月以内に見直しを行なうなどして入居者の現状に応じた介護計画となるようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰省時の送迎支援や個別の要望に応じての外出支援、通院の際の付き添い支援など、入居者一人ひとりの要望に対してきめ細かく柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が安心して継続的な医療を受けられるように、本人のかかりつけの医療機関と連携し支援している。必要時にはかかりつけ医療機関往診等の対応も受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期についての指針を作成し、入居時に文書で説明している。実際に重度化した場合には、家族、主治医と話し合いながら対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけや対応の重要性について日々のミーティングや会議などの場において繰り返し確認している。個人情報の取り扱いについても日頃から注意を払い、書類等の管理を徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の時間、あるいは外出など、できるだけ入居者の希望やペースで生活が送れるように柔軟に対応している。		

グループホーム ひまわりそう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの状態に合わせて調理しており、食事の際は楽しんで食事ができる雰囲気づくりに努めている。		職員の勤務体制の都合上、入居者と職員は別々に食事を摂っているが、一緒に食事することでさらに入居者と職員の親近感も増し、それが入居者の安心した楽しい食事へと繋がっていくと思われる。勤務体制を工夫するなどして職員も一緒に食事を摂ることに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、入浴の際は入居者の希望に合わせて、時間に捉われずにゆっくり入浴を楽しめるようにしている。入浴拒否傾向にある入居者へは、職員がそれとなく声かけを行ない、さりげなく誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のこれまでの生活歴、趣味や特技を把握し、ホームでの生活においてもそれまで本人が大切にされてきたことが大切にでき、楽しみや生きがいを持って暮らしていけるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、散髪、ドライブなど入居者の希望に応じて外出できるように柔軟に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を始めホームの出入り口には鍵をかけていない。職員は入居者をさりげなく見守り、入居者が外に出られた際は職員がさりげなく付き添うなどして対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画が作成されており、それに基づいて年2回、消防署や地元消防団の協力のもとに避難訓練、消火訓練などを行なっている。また災害時に備えて必要な備品等も準備されている。		

グループホーム ひまわりそう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量及び水分摂取量を確認している。栄養のバランスに配慮した献立にしているが、摂取量によって不足する部分については野菜ジュース等で補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内各所には場所がわかる表示がなされており、入居者の混乱を防ぐ工夫をしている。また季節の草花を飾り、季節感を感じられような工夫もある。食堂や居間は明るく、自然の光や風が入り込むようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者がそれまで使っていた日用品や家具などを出来るだけ持ってきていただくように家族にお願いし、安心して過ごせる居室空間づくりに取り組んでいる。		